

交通安全対策について

(質問) 交通危険箇所に対する取り組みとして、信号機設置が難しい場所などでカラー舗装の横断歩道を導入し、視認性を高めることにより、交通事故の抑止につなげてはどうか。

(答弁) 信号機未設置箇所へのカラー舗装の導入については、設置場所の選定や標示する色など、市域を超えて広域的に統一させることが望ましいことから、他の自治体の設置状況を調査し、鈴鹿市通学路交通安全プログラムの中でも協議するなど、調査研究していく。

その他の質問 ○消防団員 ○若者のU I J ターン促進



情報活用能力について

(質問) 学校におけるSNSなどへの取り組みや個人情報の大切さについての取り組みはどうなっているか。また、匿名・流動型犯罪グループいわゆる「トクリュウ」に有効な対策は。

(答弁) 子どもたちには情報があふれる現代において「情報活用能力体系表」の活用などにより、知識技能だけでなく自分の考えをどのように表現するか、友達の考えや意見をどのように感じるかなどを指導している。トクリュウに特化した対策は難しいが、SNSなどを悪用した闇バイトなどの危険性に対し市公式LINEなどで啓発に努める。



市民に寄り添った窓口について

(質問) 行政のデジタル化を進める中、死亡届出後に、ご遺族が行う手続きの負担を軽減するワンストップ窓口である「おくやみコーナー」のWebサービス導入の検討について伺う。

(答弁) 本市の「おくやみコーナー」の予約方法は電話のみであるが、市民に寄り添い丁寧な対応に努めている。デジタル技術を活用した住民サービスの向上や、業務の効率化を図ることは重要であり、今後は、情報システムの標準化を見据え、インターネットでの来庁予約などの調査検討を行う。

その他の質問 ○若者の活躍と市内定着



権利と尊厳を守る生活保護へ

(質問) 権利性や尊厳明確化のためウェブサイトやしおり、保護課名称などを見直しては。扶養調査は金銭的效果はなく、親族関係を壊す危険があるため希望者のみにしては。他市同様、信頼構築のため訪問のケースワーカー(CW)1人体制、女性CW増員、研修状況を問う。

(答弁) しおりなどに基本的な内容を掲載し、あわせて必要な情報を説明している。扶養調査は、必要な調査として実施。訪問は原則2人で行うが、事情により柔軟に対応。女性CWは必要性を認識している。

その他の質問 ○納税相談



J R加佐登駅の駅舎について

(質問) 令和6年7月にJ R加佐登駅構内のトイレが閉鎖、8月には駅舎建て替えを知らせる貼り紙がされた。J R東海からどのような説明があったのか。利用者市民への影響はどうか。トイレがなくなると困る人が出る。

(答弁) 駅舎は券売機や待合スペースも備えた延床面積30㎡程度の鉄骨平屋建ての待合所に建て替えられ、トイレは設置しないと説明があった。今後も、便利で移動しやすい環境の整備をJ R東海に要望していく。

その他の質問 ○終活支援 ○交通事故対策



鈴鹿の農業を考える

(質問) ①農業従事者への支援体制②学校給食の鈴鹿産農産物の現況③小中学校で実施の農業体験の効果④本市の景観と農業について伺う。

(答弁) ①昨年度の実績では転作実施団体に約9,000万円を補助。また、50歳未満の新規就農者に対して、経営資金のほか農業機械や施設購入費用の一部を補助。②米飯は100%鈴鹿市産。野菜も献立を工夫し地元産野菜の調達に努めている。③食の恩恵や食品ロスなど多様な教育的効果を期待し、全小中学校で農業体験を実施。④景観の保全について必要に応じて農業関係部署と検討する。

